

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	休日保育事業(民間保育所)	会計	一般会計	事業No.	170	施策順No.	37-016
		事業種別	政策・その他	予算科目	3-2-5-11-9		
政策	3 健やかに安心して暮らせるまちづくり			課等名	子育て支援課		
施策	37 子どもを産み育てやすい環境の充実			事業期間	開始	11	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	・休日に保育が必要な保護者と児童。 具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない	
	誰、何に	就学前児童数(人)	6186	6032	5856	5725			
	意図	・職種や勤務体系により休日に保育を必要とする保護者の支援(保護者の子育て支援)。 事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績		23年度目標
	対象をどう変えるか	年間延べ利用児童数(人)	160	179	182	160	128		160
		休日保育事業実施日数(日)	68	69	69	67	67	69	目標達成度 A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		22年度は過去3年間に比較すると利用人数が減少したが、休日保育は依然として需要がある。							

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>この事業は、日曜、祝日等の保護者の就労により児童が保育に欠けている場合の休日保育の需要に対応するため、休日の保育を行なう事業に対し、補助を行なうことにより休日に保育に欠ける乳幼児の福祉の向上を図ることを目的とする。</li> <li>飯田市では、飯田中央保育園で実施しており、全市の休日の保育ニーズに対応した子育て支援をしている。保護者は一定の利用料を負担すれば、要件に関係なく児童を預けることができる。</li> <li>この補助金は、利用件数に応じた件数払い方式で交付していて、休日保育担当職員の人件費に充てられていたが、平成17年度から年額払いに改正された。</li> </ul>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	・休日事業の実施件数により、担当職員の人件費を補助。	実施園数 延べ開所日数	1園 67日
23年度実施計画	・休日事業の実施件数により、担当職員の人件費を補助。 <基本分> 1,161,000円 <加算分> 80,500円(利用者が210人を超えた場合)	実施園数 延べ開所日数	1園 69日

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項 (県)休日保育事業補助金(国1/3、県1/3)
	国庫支出金					
	県支出金		837	774	826	
	起債					
	その他					
一般財源		420	387	416		
計(A)		1,257	1,161	1,242		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			1,161			

4 事業に対する市民や議会の意見

・休日保育を実施している地域子育て支援センターが保育所併設型のため、利用しにくいという意見がある。併設されている保育所が普段利用している保育所ではないことが理由であるため、利便性の向上を求められている。
---

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	子どもを育てやすい社会環境の充実	施策の成果指標又はムツ指標	子どもを育てやすい社会環境であると感じている対象者の割合
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	休祝日の就労等により休日に保育を要する児童に対して飯田中央保育園が休日保育を実施し、他園に在籍する児童であっても休日保育の受入をすることで、多様な保育ニーズに対応している。		
	後期に向けた課題	過去の実績より利用実績はほぼ横ばいであることから、一定の需要があることがわかる。今後の推移を考察し、引き続き飯田中央保育園の休日保育を補助する。		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	保育要件を必要とせず、他園に在籍する児童でも利用が可能であるという点から利便性は高い。しかし認知度が低いため、保育所入所の案内冊子だけでなく、「月刊いいだ」やつどいの広場の案内冊子内にも掲載し、PRしている。		
	後期に向けた課題	他園に在籍している児童が利用するには不便であるという声もあるが、園の経営コストと保育ニーズの兼ね合いを考慮する必要がある。		
コストを削減するためにどのような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	事業主体は市であり、事業費は全て補助金なので削減すべきコストはない。		
	後期に向けた課題	今後も市が事業主体として実施し、事業費は全て補助金なので削減すべきコストはない。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	本事業は市が補助金を交付していることから、関与は適切である。		
	後期に向けた課題	今後も引き続き市が事業主体となり、休日保育を補助していく。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてきましたか、又は、配慮してましたか	4年間の振り返り	事業主体は市であり、休日保育を実施する民間保育所に補助金を交付することで、休日保育のニーズに対応する。		
	後期に向けた課題	引き続き市が主体となり、休日保育を実施する民間保育所に補助金を交付し、休日保育のニーズに対応する。		
全体を通じて	4年間の振り返り	毎月約10名の休日保育の利用実績があり、その数が大きく変動することはあまりない。1日の利用数にすると2~3名とあまり多い数ではないが、保育要件を必要とせず、他園に在籍する児童でも利用できるため今後も需要はあると考えられる。		
	後期に向けた課題	現時点では飯田中央保育園のみが休日保育を実施しており、丘の上に立地していることから比較的利便性の面での条件は良いと考えられる。引き続き本事業にて休日保育を補助していく。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ある	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ある
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input checked="" type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	--	-------------------------------	-------------------------------	--------------------------------	-----------------------------------